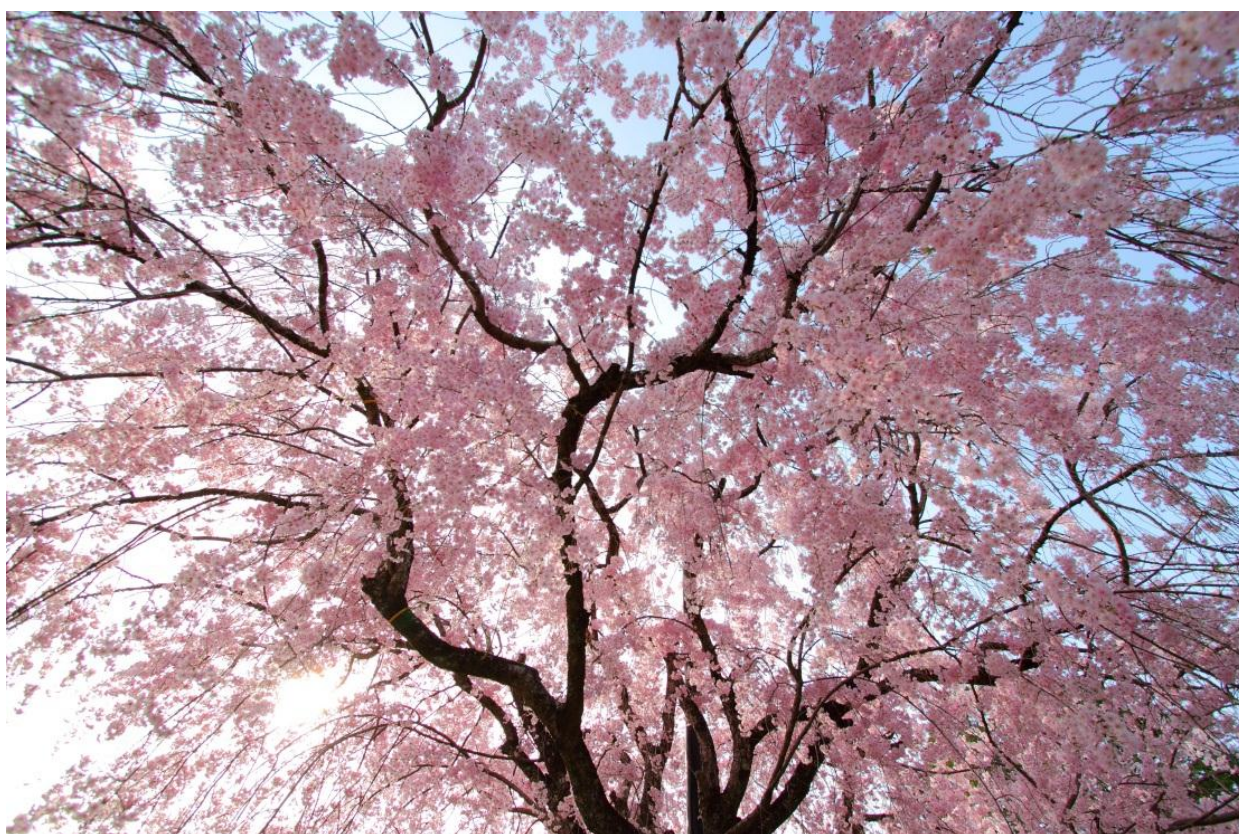


緩和ケアニュース

第32号

特集：せん妄について



京都 妙心寺 Photo T.I

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

倉敷中央病院 緩和ケアチーム

2014年3月発行

今回の特集内容

今回の緩和ケアニュースは、がんなどの生命を脅かす疾患の治療中に見られる「せん妄」について、精神科の小高医師に症状からその対処法についてまで解説していただきます。

症 状

医療関係者でない方にとって、せん妄という言葉はあまり馴染みのないものと思います。患者さんやご家族には「夢遊病のような状態」「混乱している状態」といった言葉で説明させていただくことがあります。がんのために体調が悪化している時や、手術後、睡眠薬や医療用麻薬を使用している時などに、一定期間意識が混乱したような状態になります。具体的な症状には以下のようなものがあります。

- ①場所や時間がわからなくなる。
- ②夜間眠れずに昼間に眠り、昼夜が逆転してしまう。
- ③「誰かが部屋の中に入ってきている」など幻覚がみえる
- ④ベッドから降りてどこかへ行こうとしたり、ベッドから落ちるなど落ち着かない。
- ⑤現実にはおきていない事を話したり、話のつじつまが合わない。
- ⑥怒りっぽくなり、他者への暴力が出る事もある。
- ⑦体につけられている治療のために必要な点滴の管を抜いてしまう。

以上のような症状が突然みられるようになると、患者さんの家族は「おかしくなった」「認知症になってしまった」「通常の会話ができなくなった」などとショックを受け、強い動揺・不安を抱く事が多いです。しかし、せん妄はその原因を除去したり、環境を整えたり薬物による対

処を行ったりする事で治りうるものであり、認知症とは異なるものです。

原 因

以下に、せん妄が引き起こされる原因の一例を挙げます。

- 薬剤
⇒医療用麻薬、睡眠薬、ステロイドなど
- 電解質異常(血液検査値の異常)
⇒高カルシウム血症、低ナトリウム血症など
- 環境の変化(高齢だと原因になりやすい)
⇒入院生活、病棟(病室)の移動
- 貧血
- 中枢神経の疾患合併
⇒脳腫瘍、脳梗塞など
- 体調の悪化
⇒脱水、肝臓や腎臓の障害、肺炎などの感染症
- 全身の不快感
⇒便秘、痛みなど

治 療

①原因の治療

- ◆せん妄の原因となっている薬剤があれば可能な限り中止や変更を試みる。
- ◆電解質異常や脱水があればその治療を行い、感染があればその治療を行う。

このような対処をしたり、薬剤による対処を行えば、せん妄は治りうるものです。しかし、せん妄の原因が体調の悪化(肝臓や腎臓の障害、肺炎など)で、体調の悪化の改善が困難な場合には、せん妄の治療目標を「せん妄の症状を無くす」ということから「日中にはまずまず落ち着いて過せるようになり、夜



も眠れるようになる」といったところに修正せざるを得ない事もあります。

②薬剤による対処

原因を改善させる事が困難な場合や、せん妄の症状が強い時には、薬剤を用いてせん妄の治療を行います。まずは眠れない時や落ち着かない時に頓服として薬剤（点滴か内服）使用し、それでも落ち着かない時には定期的に薬剤を使用します。せん妄の治療薬を用いる事で、昼間にも眠気が生じたり、呂律がまわらなくなったり、ふらついたりといった副作用が出る事もあります。しかし、副作用が出た場合でも、医師や看護師に伝えていただければすぐに対処しますのでご安心ください。

ケアと工夫

原因の除去や薬剤の使用といった医療的な対処以外にも、せん妄を少しでも和らげるために行うケアや工夫があります。

①ご家族の付き添い

せん妄により混乱が生じて、ご家族に付き添ってもらっただけでせん妄が改善する場合があります。

②場所・時間の感覚を取り戻す

時計やカレンダーを患者さんの見える場所に置いたり、さりげなく日常の会話に日付や

場所を聞くフレーズをはさんだりする事も重要です。

③環境整備

朝になればカーテンを開けて自然の光を取り入れ、適度な運動（歩行や座るなど）や刺激（会話やテレビ）を入れる。夜の室内は真っ暗にはせず、豆電球などの薄明かりの状態にする。また、患者さんの安全確保のために、刃物やライターなどの危険物は部屋に置かないことも大切なケアのひとつになります。

④会話での工夫

つじつまが合わなくても否定や訂正をしないことが重要です。否定されると余計に混乱したり興奮したりすることがあるためです。「おかしいことを言っているよ」といった発言も患者さんを傷つけることがあります。

さいごに

せん妄は“がんの入院患者においては約25%”“終末期がん患者においては約85%”の方に見られるとされ、そう珍しいものではありません。ですが、せん妄は早いうちに気づき、適切に対処をすることで回復が可能な症状です。ご家族から患者さんを見ていて、「何かいつも様子が違う」「おかしいな」と感じたら、医師や看護師にお伝えください。

がんサロンのお知らせ

倉敷中央病院では、がんサロンを偶数月の第3木曜日に開催しています。がんの種類などは問わず、当院にかかっておられる患者さんご家族であれば参加いただけます。いっしょにお茶でも飲みながら、おだやかな時間を過ごしましょう。

第22回がんサロン
平成25年4月17日（木）10:00～11:30
外来棟3階第5会議室
事前申し込み・お問い合わせ
がん相談支援室 086-422-5063



当院の緩和ケアについて



緩和ケアとは、命を脅かす疾患による問題に直面している患者のみなさまやご家族のつらさを和らげ、その人らしさを大切に考える考え方です。

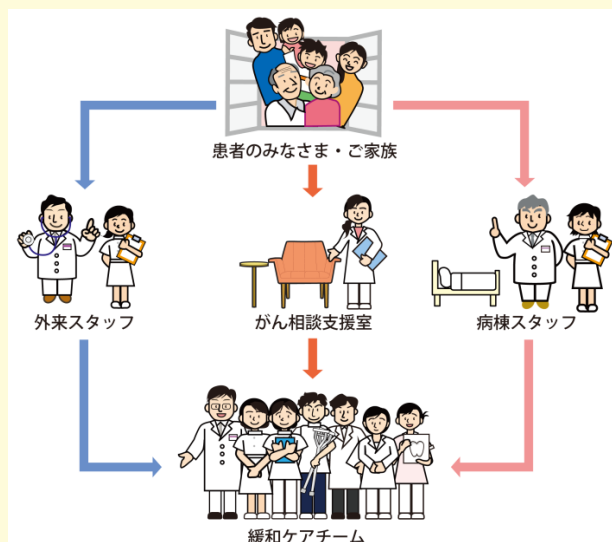
その考えに基づいて、がんなどで治療中の患者のみなさまやご家族が安心して生活を送ることができるように支援するために、当院においては「緩和ケアチーム」がさまざまな活動をしております。

「緩和ケアチーム」のメンバーは、専従医師・がん看護専門看護師・がん疼痛認定看護師・緩和ケア認定看護師・薬剤師・訪問看護師・臨床心理士・ソーシャルワーカー・作業療法士・歯科衛生士などで構成されています。

「緩和ケアチーム」は、治療時期に関わらず、患者のみなさまのからだのつらさ（疼痛・呼吸困難・吐き気など）やこころのつらさ（不安・不眠など）を和らげる治療やケアについてスタッフと一緒に対応します。また患者のみなさまの社会生活やご家族の悩みを含めた包括的なサポートも行います。

ご相談の ながれ

緩和ケアについて話を聴きたい、緩和ケアを希望されるときには、まず主治医・看護師（外来・病棟）・がん相談支援室にお尋ねください。



がん相談 支援室へ のご案内

がん相談支援室へご来室される方は、1-8 総合相談窓口（中央玄関を入って左側）へお声かけください



〒710-8602

岡山県倉敷市美和1-1-1

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

倉敷中央病院

総合相談・地域医療センター がん相談支援室

受付：平日9:00～17:00

土曜9:00～13:00

（受付時間は相談時間の15分前までです）

TEL：086-422-5063

発行元：公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 緩和ケアチーム

編集委員長：國末充央（医師）

編集委員：今村隆（臨床心理士）、岡本紗季（歯科衛生士）小倉志保（薬剤師）、
（五十音順）惣市こずえ（緩和ケア認定看護師）、長岡泰子（歯科衛生士）